

## カルチャー

## Books



ノンフィクションの面白さを知って以来、小説からはしばらく遠ざかっていましたが、文章が上手になりたい、人の心の機微をもっと理解できるようになりたい、教養を身につけたい、という動機から、再び小説を読むようになりました。

小川洋子・川上弘美・梨木香歩など読んでみましたが、王道の村上春樹氏は避けて通れないと思って読み始めました。

村上氏で読んだことがあるのは『ノルウェーの森』だけ。長編が何冊も出ていて、どれも人気が高いので、どれから読み始めてもいいのですが、折角なら代表作をと思って、村上ファンの妻から紹介してもらったのがこの『ねじまき鳥クロニクル』です。

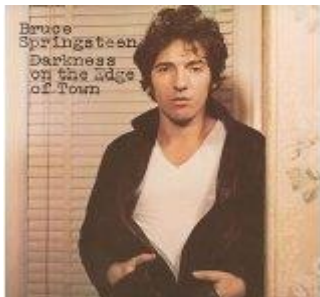
かなりの分量です。もう少し凝縮できないものかと思いますが、どうでもいい記述のところはとばし読みすればいいでしょう。

主人公は一応「ぼく」ですが、ノモンハン・シベリア抑留を体験した元軍人、その少し下の世代で満州から引き上げてきたナツメグ、近所に住む高校生くらいの年齢の女の子など、登場人文は世代的に多彩です。大河小説のように感じました。さすが「クロニクル」(年代記)というだけあります。

ポイントは村上氏が初めて暴力と向き合う作品を書いたこと、はじめ孤立した生活を送っていた「ぼく」が人とのつながりを持ち始めていくこと(それは恐ろしい世界につながっていきますが)、「ぼく」が心の深い所に入っていき決意をして人間の心の暗部に触れていくこと、などでしょうか。

「ねじを巻く」というフレーズは『ノルウェーの森』にも出てきましたが、「ねじを巻く」という作業を社会的・時代的に広げていくこととはどういうことなのかを描いていたように感じました。その描写にはこれだけのボリュームが必要だったのでしょうか。力作です。

## Music



村上春樹氏はアメリカ文学の翻訳もたくさんなさっていますが、私にアメリカ文学をイメージさせるロックの一つがブルース・スプリングスティーン。

暑苦しいロックン・ローラーのイメージがありますが、詞の内容は内省的で、宗教的意味すら連想させます。

彼のアルバムで最も好きなのが「闇に吠える街」。出世作「明日なき暴走」から3年のインターバルが経っており、登場人物も少し年を取らせています。

彼にしては大人しめのアルバムですが、楽曲は粒ぞろい。コンサートのスタンダードナンバーが並んでいます。

## 時見草通信

## 第1号

当相談室開業にあたって、たよりを発行していきたいと思っていました。父親はマスコミの仕事、私も高校時代新聞部に入っていましたので、業のようなものかもしれません。経験のない素人仕事ですが、ご笑覧下さい。

## 日記・雑感

3月22日(日)「流星ワゴン」の最終回。久しぶりに欠かさず見たドラマでした。テーマは父と息子。ー 高利貸しを営み、家庭でも我がままな父。そんな父に逆らい、東京で家族思いの父・夫になろうとしたものの、会社からはリストラされ、息子は家庭内暴力を奮うようになり、妻からは離婚届を突きつけられる。息子はどん底の人生をタイムマシンに乗ってやり直そうとする。今の自分と同じ年齢の父親を同伴にしてー 原作の重松清という作家。余り読んだことはないのですが、父親をテーマにした小説をよく書いているようです。

国は経済的豊かさを取り戻そうと躍起になっていますが、「日本の課題はそんなことではない。豊かさ追求の陰で犠牲にしてきた家族や心と向き合うことこそ日本の課題なのではないか」という思いがドラマに込められていたように受け止めました。

3月某日 グループセッションを始めたいと考えています。メンタルな話題を話せる場は少ないです。ご意見いただければ幸いです。



## 営業時間

月曜日 10時～19時  
金曜日 10時～19時  
土曜日 10時～17時

## アクセス

093-964-0201

北九州市小倉南区南方5-5-15

モノレール徳力嵐山口駅から歩いて3～4分です。

kiku-cp@ymt.bbq.jp

http://www1.bbq.jp/kiku-cp/